

株式会社アドバンテスト

2021年3月期(2020年度)第1四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年7月30日(木)

Q: 現在の市場環境に関して、業界全体では前向きなトーンが各所で直近出てきているが、想定よりも早く台湾ファウンドリが回復していきそうな感触はあるか？

A: 台湾ファウンドリも台湾 OSAT も足元は繁忙状況にあるが、OSAT 各社は米中対立による今後のビジネス減少を想定している。もしそれが現実のものとなれば、OSAT で発生する余剰キャパシティが消化されるまで少し時間を要すると考えている。もちろん最終的には調整を経て、テスト需要が再増加するのは間違いないが、いつ頃になるかが非常に読みにくい。半導体サプライチェーンは上流から下流に行くほど分散化しており、OSAT 各社のサプライチェーン再構築は前工程より時間がかかると考えている。このあたりが前工程 SPE メーカーと当社の事業環境が異なっている点であり、保守的な見方をとる背景。

Q: 半導体市場のデカップリングが起きればサプライチェーンが分断され、投資効率は落ち、テスト需要にプラスと想像できる。また中長期では、前工程投資の活発化はテスト投資にも連動すると考えるが、どうか。

A: テスタ市場が落ち着くまでは少し時間を要するのではないかと考えている。需要減はサプライチェーンの上流から穴埋めされていく。いずれは OSAT でも調整局面は終わるが、一過性の需要減とはいえ調整に少し時間がかかってしまうことを懸念している。

Q: 本日発表された PDF Solutions 社との提携について、具体的にどのような効果やアウトプットをイメージしているのかご説明をいただきたい。

A: 事業戦略に影響するので詳しく回答できないが、PDF Solutions 社は、幅広い SPE のデータを収集し解析するツールや環境を提供する、データ・アナリティクスソリューションの企業。彼らの環境の上に、Advantest Cloud というものを構築します。そして、なぜ良い半導体が出来たのか、なぜ悪い半導体になったのか、当社のテストが吐き出すデータを起点にプロセスごとのデータパラメータを重ねることで、設計の改善や歩留まり改善に貢献することを長期的に目標としています。

Q: 各セグメント利益の QoQ での増減益要因を確認したい。

A: サービス他部門は、昨 4Q にあった無形資産の償却費負担が軽減したことで利益が改善。また 1Q は、Essai が 3 カ月フルに連結したことも増益要因。ただ 1Q は製品ミックスが良かったこともあり、サービス他の利益はやや高めの水準で出たと考えている。メカトロクス関連事業の減益理由は、ナノテクノロジー事業でのコロナウイルス影響を受けた設置遅延による減収によるもの。

半導体・部品テストシステム事業も、利益面で一番貢献している SoC テスタの売上減少によるミックス悪化により、利益率が悪化した。

Q: SoC テスタとメモリ・テストの四半期ごとの需要トレンドを確認したい。

A: SoC テスタについては、我々が強みを持っている HPC を中心とするお客様で最先端ノードの量産が 2021 年に計画されていることを背景に、4Q から 2021 年度にかけて需要は上向き見通し。

メモリ・テストについては、足元は非常に受注・売上とも好調なものの、下期にかけ少しローダウンする見通し。ただこちらも、データセンター関連需要への期待、今年はコロナで停滞しているハイエンドスマホ向けの LPDDR5 の本格量産、DDR5 のパイロット生産、中国や韓国での DRAM や NAND のファブ増強など、期待できるテーマが来年は複数ある。それらを背景として、こちらもやはり 4Q から 2021 年度にかけて需要回復を見込んでいる。

Q: 市場の雰囲気として、21 年のテスト市場は 19 年並みの規模感への復活を期待して良いか？

A: コロナ次第の面はあるが、21 年には様々なテクノロジー進化が到来するであろうということ、各国の経済刺激策の効果がそれなりに顕在化するであろうことから、半導体市場は伸びていくと考えている。従って、21 年以降の当社の事業環境は明るいものを期待している。

Q: SoC、メモリの市場サイズにおいて競合企業と見方に差がありますが、御社の市場の見方や市場シェアの見方を教えてください。また、来年の市場サイズの方向感は何？

A: SoC テスタ市場の方は、米中対立の影響で今年の市場規模は下がり、下がった分は来年戻ると当社は見えています。競合企業には米中対立の影響を薄くするだけの強い引き合いが彼らの顧客からあったことで、市場の見方が違うのではないかと考えています。市場シェアについては、今年は顧客ミックスの関係で競合優位とみっていますが、今後伸びゆく市場の中で、勝ち負けを繰り返しながらシェアを分け合っていくというイメージ。

メモリ・テスト市場の方は、19 年は調整の 1 年でしたが、今年はそれを取り戻す勢いです。そして来年はスマホの伸び、LPDDR5 の伸び、DDR5 の波がやってくるので、市場が落ちていくイメージはない。市場シェアについてはお客様の 2 社購買戦略はあるものの、歴史的に強固な顧客関係を築き上げていることで 60%前後の市場シェアを今後も維持できると考えています。

Q: 受注予想について確認したい。2Q がボトムとなる、また下期の受注予想は 1,200 億円強としているが、3Q と 4Q のバランスは。

A: 3Q は 2Q よりちょっと大きな 600 億円弱、4Q は 3Q より大きな 600 億強と、尻上がりに伸びていくイメージでお考えいただきたいと思います。来年度の 1Q はもっと受注が伸びていくことを期待しています。

Q: 余剰設備の調整期間を6ヵ月から 1 年かかると想定した、その前提条件は？

A: 半導体の生産量とテスト需要、顧客サプライチェーン全般の設備稼働状況を把握し、余剰設備の消化見通しを導き出している。また我々も余剰設備の活用に向け、お客様と戦略的に取り組んでいる。それらの活動状況の進捗によって消化期間に幅が生じると考えている。

Q: 今回の通期計画は、余剰テストの調整期間をどの程度と見た内容か？

A: 6か月。足元は既に調整期に入っており、12 月から来年年明けまでの半年間を調整期間と見たもの。

Q: SoC テスタの市場規模を 1 月時点の 2,700M\$から今回 2,400M\$に変更したが、その減少分 300M\$の内訳は？

A: 新型コロナウイルスの影響から車載、産機向けで約 300M\$減、米中対立の影響で約 200M\$減を見ている。一方、先端プロセス向けの需要増が約 200M\$あり、差し引きで約 300M\$の減少となった。

以上

※本資料に記載されている内容は、決算説明会の質疑をもとに当社の判断で要約したものです。また本資料には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。